



スターチャイルド《藤が丘ナーサリー》
評価結果

2015年3月

かながわ福祉サービス第三者評価認証機関第26号 横浜市福祉サービス第三者評価指定機関第17号

評価実施機関：特定非営利活動法人よこはま地域福祉研究センター

〒231-0013 横浜市中区住吉町 2-17 金井ビル 201号

TEL045-228-9117・FAX045-228-9118

<http://www.yresearch-center.jp>



実施概要

事業所名	スターチャイルド《藤が丘ナーサリー》	
報告書作成日	2015年3月13日	(評価に要した期間 5か月間)
評価機関	特定非営利活動法人 よこはま地域福祉研究センター	

*評価方法

-
- | | |
|-----------------|---|
| 1. 自己評価 | <p>【実施期間：2014年10月1日～12月1日】</p> <ul style="list-style-type: none">・評価機関による職員説明会にて趣旨を確認し、勤務時間内に記入後、各クラスの会議で各自の評価票をもとに1項目毎に意見交換を行った。・その後、各クラスの代表、主任、施設長で協議し、合意の上まとめた。 |
| 2. 利用者家族アンケート調査 | <p>【実施期間：2014年12月1日～12月15日】</p> <ul style="list-style-type: none">・配付：全園児の保護者(34家族)に対して、園から手渡しした。・回収：保護者より評価機関に直接返送してもらった。 |
| 3. 訪問実地調査 | <p>【実施日：2015年1月21日、1月28日】</p> <p>■第1日目</p> <ul style="list-style-type: none">・午前：各クラスの保育観察～園児と一緒に昼食をとる。・午後：書類調査～事業者面接調査(施設長・主任) <p>■第2日目</p> <ul style="list-style-type: none">・午前：各クラスの保育観察～園児と一緒に昼食をとる。・午後：職員ヒアリング(クラスリーダー5名、栄養士、非常勤職員1名)～事業者面接調査(施設長・主任) |
| 4. 利用者本人調査 | <p>【実施日：2015年1月23日、1月28日】</p> <ul style="list-style-type: none">・訪問日両日とも各クラスの午前中の保育時間を中心に、食事、排せつ、午睡の状況、登降園の様子などを観察。・乳児については主に観察調査、幼児については観察と食事の時間などに適宜聞き取り調査を実施。 |
-

評価結果についての講評

(高く評価できる点、独自性のある点、今後期待される点、工夫改善点などについての総括)

【施設の概要】

スターチャイルド「藤が丘ナーサリー」は東急田園都市線「藤が丘」駅から徒歩約 2 分に位置している 3 階建て商業施設の 2 階にあります。駅前の公園のほか、園児が散歩コースとして歩いて行ける範囲に、いくつかの緑豊かな公園が点在しています。

保育室は、面積が 280 平米のワンフロアとなっています。園庭はありませんが、施設から歩いて数分のところに、夏期に使用する水遊び専用の場を設置しています。

同園は神奈川県、埼玉県に 8 か所の保育園を運営する株式会社みつばにより、平成 24 年 4 月に開設されました。定員は 50 人（0 歳児～5 歳児）で、開園時間は平日 7 時 00 分～20 時 00 分、土曜日 7 時 00 分～17 時 00 分です。

保育理念は「わたしたちは、こどもたちの無限の可能性を信じ、意欲を引き出し、伸ばします」としており、「よく考え、心身ともにたくましい子」「個性の豊かな子」「やさしさと思いやりのある子」を保育方針としています。

1. 高く評価できる点

●保育士がその子らしさを見出し、個々の自主性を尊重した保育に取り組んでいます

保育理念に沿って、保育士は個々の子どものその子らしさをきちんと見極めて、その子に合った保育に取り組んでいます。一人一人のペースを尊重しながら声掛けや援助を行ったり、運動の得意な子どもには、それを活かすような活動を促しています。

子どもの意欲を引き出すために、否定的な言葉は使わずに、小さなことでもできると、「よくやったね」「上手だったね」と褒めています。子どもたちは、保育士に褒めてもらえると、一層その活動をうまくやろうとして真剣に取り組めます。

けんかが起きた場合でも、一方を叱るのではなく、それぞれの話を聞いて、なぜそのような行動をとったのかを考えさせます。また、友達を傷つけるような言葉を用いた時などには、子どもが理解できるようにきちんと注意をして、子ども自身が自分で気付くように指導しています。

このように、保育士は一人一人の子どもの個性や、自主性を重んじた保育を実践しています。

●限られた空間を有効活用し、遊び、運動、飼育など保育に必要な活動を実践しています

園の保育室はワンフロアとなっており、園庭はありません。その中で、可動式棚、マット、机、スクリーンなどを使用して、それぞれの活動にとって必要な空間を作っています。活動の時間を調節して、一つのクラスが散歩の時間には、他のクラスの園児たちは集中力が必要な製作等の活動や、縄跳び、転がしドッジボールなどの広いスペースを必要とする運動を楽しみます。隣のクラスが静かな活動をするときには、音楽を控えて落ち着いた作業をする時間としています。

また、ゴーヤの棚を作ったり、プランターではひまわり、あさがお、ミニトマトなどを栽培したり、ザリ

ガニ、カブトムシ、オタマジャクシなども飼育しています。

このように、ビル内の限られた空間を有効的に使えるよう工夫し、保育にとって必要な活動を実践しています。

●職員が自分の目標を設定し、期末に振り返りのできる仕組みを作っています

園は職員の教育、研修に力を入れています。半年ごとに職員は自分の目標を設定し、施設長との面談を行い、その目標に沿って、園では必要な外部の研修、内部の勉強会を計画していきます。半年後には、その目標の達成度等を自己評価し、達成できなかった場合にその理由や改善点を考えて、次期の目標設定に役立てるようにしています。また、運営会社では、新規職員、中堅職員、管理職といった職階別に期待する能力や知識を定めており、職員がモチベーションを高めて目標を設定することができます。

このように、Plan(計画)、Do(実行)、Check(検証)、Action(改善)というサイクルが職員のスキルアップのための仕組みとして作られ、実践されています。

2. 独自性のある点

●安全管理や事故防止に力を入れています

安全管理マニュアル、事故防止マニュアルが整備されており、マニュアル類は全職員に周知されています。安全点検は自己点検チェック表に基づき、職員が毎日行っており、さらに安全配慮チェックシートを用いた点検も職員が月に一度実施しています。毎月、大地震を想定して広域避難場所への避難訓練を実施しています。また、事故やヒヤリハットの報告書を作成し、改善について話し合いを行っています。さらに運営会社では、系列保育園全体の事故やヒヤリハットの集計、分析を行い、時間別、場所別、年齢別などに分けてデータ化し、その結果を各園にフィードバックし、注意喚起を行っています。単に、報告書を作成するだけでなく、事故分析から具体的な対策を検討、実践し、事故防止に努めています。

3. 工夫・改善が望まれる点

●保護者面談、保育参観の充実が期待されます

保護者が個人面談や保育参観を希望すれば、園ではいつでも対応できることを説明していますが、個人面談や保育参観を自ら申し出る保護者は少ないようです。今回のアンケートでも面談や保育参観を希望する意見が出されていることから、今後は保護者面談や保育参観の開催方法や周知方法等について検討することが望まれます。

●保育所としての自己評価の充実が期待されます

職員の自己評価の仕組みは実践されていますが、それに対応した保育所としての自己評価は現在検討中で作成されていません。保育所としての自己評価の視点としては、職員の自己評価や意見も取り入れ、期初に運営の目標を設定して、それが期末の振り返りの時にどこまで達成できたかを評価するものです。今後は保育所としての自己評価を計画的に行う仕組みを作り、実践、公表へと繋げることが期待されます。









分類別評価結果




「ひょう太マーク」は、各評価分類の水準を表しています。
 3 つ：高い水準にある 2 つ：一定の水準にある 1 つ：改善すべき点がある

評価領域Ⅰ 利用者本人（子ども本人）の尊重

評価分類	評価の理由（コメント）
I-1 保育方針の共通理解と 保育課程等の作成 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育の理念は「子どもたちの無限の可能性を信じ、意欲を引き出し、伸ばします」となっています。さらに、保育目標、方針は、「1. よく考え、心身ともにたくましい子（自立と挑戦を支援します）、2. 個性豊かな子（個性を尊重し長所を伸ばします）、3. やさしさと思いやりのある子（社会性＝人と関わる力を身につけます）」となっており、利用者本人を尊重したものとなっています。職員には、入職時に説明するだけでなく、保育理念の具体的展開方法について園内研修を行っています。 ・ 保育課程は保育理念を基本として、子どもの最善の利益を第一義にして組み立てられています。 ・ 毎月の指導計画には、前月の子どもの意見や意思を確認しており、子どもの主体性を重視した指導計画を作成しています。
I-2 子どもの発達や状況に 応じた適切な援助の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 入園時には保護者に面接しており、子どもの様子を観察して、記録に残しています。ならし保育の説明をしており、保護者の希望に沿って日程を組んでいます。 ・ 1歳児の新入園児に対しては、ほぼ一対一で保育士がつくようにしており、新入園児の受け入れについては十分配慮しています。 ・ 年間指導計画を作成しており、子どもの発達に応じて月案、週案を作成しています。さらに子どもの状況の振り返りを行い、次期の指導計画を作成しています。
I-3 快適な施設環境の確保 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 乳児室と5歳児スペースは全面ガラス窓となっており、フロア全体に十分な陽光が取り入れられています。また空気清浄機を数台設置し、空中のゴミやウイルス、臭いを除去するようにしており、さらに清掃チェック表に基づき、毎日清掃がきちんと行われて、保育室は快適な空間となっています。 ・ 乳児室には沐浴施設が設置され、さらに幼児室のトイレスペースには温水シャワーが設置されており、これらは常に清潔に保たれています。 ・ 0、1歳児の乳児室は、スペースを区切っており、さらに2歳児との間は可動式棚を使って仕切りを作っています。必要な場合は、仕切りを動かして、スペースの大きさを変化させるための工夫が行われています。また、保育室全体がワンフロアの構造となっており、自然と異年齢交流の場ができています。

<p>I-4 一人一人の子どもに 個別に対応する努力</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 0、1、2歳児に関しては、一人一人の子どもに対して、定期的に月案が作成され、月案に基づき週案を作成しています。また、子どもの状況に応じて、週案を変更するなど、柔軟に対応しています。 ・ 入園時に子どもや家庭の状況について調査票を提出してもらい、個別の家庭状況や要望を聞き取って児童票を作成しています。児童票はその後の成長過程を記載する欄を設けており、卒園まで継続して記録されています。
<p>I-5 保育上、特に配慮を要する 子どもへの取り組み</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 特に配慮を要する子どもへの取り組みについては、カリキュラム会議や乳児ミーティングなどで話し合われており、記録が残されています。 ・ 園内はバリアがなく、エレベーターもビルに設置されており、障がい児に配慮した構造となっています。また、障がいのある子どもの特性を全職員で学習し、情報を共有しており、実際の保育の場面でも障がいのある子どもと他の子どもとの関わりを注意深く配慮している保育士の姿が観察されました。 ・ 児童虐待対応マニュアル及び対応フローチャートが作成されており職員に周知されています。虐待を疑われる子どもがいた場合、横浜市青葉福祉保健センターや横浜市北部児童相談所との連携を取りつつ、保護者の様子を見ながら、見守り続けることになっています。 ・ 入園時にアレルギーに関する調査を行っており、アレルギーが疑われる場合は、医師の診断書を提出してもらい、指示をもとに対応しています。アレルギー対応が必要な子どもには、専用トレイや専用食器、名札を使用し、栄養士、調理職員との確認を行って、事故防止に努めています。 ・ 国籍や文化や生活の違いなども他の子どもたちが理解できるように配慮する用意はありますが、現在、外国籍や帰国子女等の子どもが入園していないので、意思疎通の困難な状況は生じておらず、対策は特にとっていません。しかし、今後、外国籍の子どもが入園する可能性もあり、そのために、横浜市通訳ボランティア派遣事業などが利用できる体制をとっておくことが望まれます。
<p>I-6 苦情解決体制</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 入園のしおりに、「ご意見、ご要望、ご質問などをお寄せください」との記述があり、第三者委員の氏名と電話番号が記載されています。また、かながわ福祉サービス運営適正化委員会事務局や青葉区子ども家庭支援相談窓口等の電話番号は保護者にプリントで配布されており、外部の権利擁護機関に直接申し立てを行える仕組みが作られています。 ・ 苦情を受け付け、解決に至るまでの手順を示したフローチャートが作成されています。苦情、要望があった場合、園内でまず話し合いがなされ、必要に応じて、第三者委員を交えて話し合いを行うことになっています。また、解決が困難な場合はかながわ福祉サービス運営適正化委員会事務局との連携体制がつくられています。

評価領域Ⅱ サービスの実施内容

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>Ⅱ－1 保育内容[遊び]</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・保育室はワンフロアの構造ですが、マットや可動式の棚、机等を用いてコーナーを作り、子どもが落ち着いて遊べるよう環境構成を工夫しています。可動式の棚や仕切りを用いて各クラスの活動の場を確保するとともに、隣のクラスと活動の調整をするなどして、子どもたちが落ち着いて活動に取り組めるように工夫しています。 ・ままごと、ブロック、パズル、絵本などのおもちゃが子どもの目線に合わせて並べられ、子どもが自由に取り出して遊ぶことができるようになっています。乳児には手作りおもちゃ、幼児にはパズルやかかるた、コマ等子どもの年齢や発達に合わせたおもちゃが用意されています。 ・自由遊びの時間には、一人でゆっくりと絵本を読む子ども、グループでゲームをする子ども、それぞれが作ったブロックを2、3人で合体し大きな作品に仕上げる子どもなど、それぞれが好きな遊びをしています。 ・かるた、ハンカチ落としなどの集団での遊びを多く取り入れ、子どもたちが楽しみながら、ルールを守るなどの社会性を身につけられるように支援しています。 ・ビル内の保育園ですが、ひまわり、ゴーヤ、ミニトマト等を栽培し、観察画を描いたり、野菜スタンプを楽しんだり、収穫して食べたりしています。また、ザリガニ、カブトムシ、オタマジャクシ等を育てています。近隣には自然豊かな公園が多く、季節の変化を感じたり、小動物や植物に触れることができます。 ・活動の中に歌やダンス、体操を多く取り入れ、子どもが身体を使って表現できる機会を作っています。また、毎月、季節の製作を行い、作品を保育室に掲示しています。自由時間には子どもたちは粘土や折り紙で好きな作品を作ったり、絵を描いたりしています。 ・保育士は、子どもに対して否定的な言葉や命令的な言葉を用いることはなく、子どもが出来たことを誉め、出来ないことは励まして、子どもが自分からその気になって取り組めるように働きかけています。また、注意するときには「走ったらどうなるの？」など子どもに考えさせるようにして、子どもが自分で分かるように促しています。 ・子ども同士のけんかについては、乳児は保育士が間に入り、思いを言葉で伝えられるように支援しています。幼児の場合は、保育士は、子ども同士で解決できるよう見守っていますが、必要に応じて、双方の言い分を聞いて仲立ちし、子どもが自分達で納得できる解決法を考えられるように働きかけています。 ・保育室はワンフロアになっているので、全ての活動の様子が一目で見渡せるようになっています。3、4、5歳児、0、1歳児は生活や活動を共にし、日常的に交流しています。2歳児も、0、1歳児と一緒に朝の

会を行う、一緒に散歩に行くなどし、交流しています。年上の子どもが年下の子どもに遊び方を教えたり、着替えの手助けをしたり、0歳児が1歳児を真似てトイレに座ったりするなど、お互いが学びあっています。

- ・園庭はありませんが、保育室は、室内の壁を利用したロッククライミングの固定遊具や登り棒のように登れる柱など、室内でも身体を使って遊べるよう設計されています。また、歩いて数分のところに水遊びができる場所も確保しています。室内での活動の中に、転がしドッジボールや縄跳び、鬼ごっこなど身体を動かす遊びを多く取り入れ、子どもが十分に身体を鍛えられるように工夫しています。外部講師による体操教室も実施しています。

Ⅱ - 1

保育内容[生活]



- ・子どもが完食したり、苦手なものを食べたり、お代わりをした時には、保育士は「すごい」「えらい」などと誉め、子どもが自分から意欲を持って食事をするように働きかけています。
- ・食育計画を作成し、栄養士が中心となり、栄養素の話、箸の使い方などの食育活動を行っています。2～5歳児は、季節に合わせたクッキング活動を毎月実施しています。
- ・月に一度のクラス合同での仲良しランチや幼児のおやつバイキング、誕生会の特別メニュー、卒園前のリクエストメニューなど、子どもが食を楽しむ機会を作っています。
- ・調理室が保育室と隣り合っていて、調理する様子やにおいから、食事を楽しみにする気持ちが高まるようになっていきます。
- ・調理室から子どもたちの食事の様子を見ることができるとともに、栄養士が子どもたちの食べる様子を見て回っています。毎月の仲良しランチでは、栄養士、調理職員も一緒に食事し、子どもの声を直接聞いています。
- ・毎月、献立表を作成し、保護者に配布しています。毎月の園便り「きらきら☆便り」に給食だよりとして、旬の食材を紹介しています。来年度からは、献立表と共に給食だよりを作成して内容を充実させ、献立作成のポイントや食育などについて保護者へ発信を行う予定です。
- ・乳幼児突然死症候群（SIDS）対策として、0、1歳児は5分おき、2～5歳児は20分おきに睡眠チェックをし、記録しています。
- ・5歳児は、10月の運動会後より午睡を減らし、45分教室として就学準備に向けた活動を行っています。
- ・保育士は子ども一人一人のタイミングを見てトイレに誘い、トイレに座るように働きかけ、成功した時には誉めています。子どもが自分からトイレに行きたくなるような声掛けを行い、子どもの気持ちを大切に、一人一人に合わせたトイレトレーニングを保護者の意向を確認しながら進めています。

<p>II-2 健康管理・衛生管理・ 安全管理[健康管理]</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・健康観察の基準を明記した健康管理マニュアルを整備し、それに基づき子どもの健康状態を把握しています。登園時には子どもの健康状態について視診を行い、気が付いたことを保護者に直接確認しています。また、子どもの園での健康状態で気になることがあった場合には、連絡帳に記載するとともに、降園時には必ず口頭で保護者に伝え、対応について話し合っています。 ・1歳児より食後の歯磨き指導を行っています。仕上げ磨きは、5歳児まで保育士が行っています。 ・児童健康台帳には、健康診断結果、歯科健診結果のほか、身長・体重、予防接種、既往症など、子どもの健康に関する記録が全て記載されていて、保育に活かされています。 ・感染症マニュアルがあり、入園のしおりの「保育園での健康管理」の項目に登園停止基準や保育中に感染症の疑いが生じた場合の対応を明記し、入園説明会で保護者に口頭で説明しています。感染症が発生した場合には、保護者に速やかに連絡し、保護者が迎えに来るまで、他の子どもとは別のスペースで静かに過ごせるよう配慮しています。 ・感染症が発生した場合には、玄関に掲示し保護者に情報提供しています。
<p>II-2 健康管理・衛生管理・ 安全管理[衛生管理]</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・保健・衛生管理マニュアルがあり、年1回、嘔吐処理の研修の際に、マニュアルの確認、見直しを行っています。 ・お掃除チェックリストを用いて清掃が行われていて、園内は清潔に保たれています。
<p>II-2 健康管理・衛生管理・ 安全管理[安全管理]</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・安全管理マニュアル、事故防止マニュアルがあります。マニュアルは事故や災害に対応していて、全職員に周知しています。安全点検は自己点検チェック表に基づき、職員が毎日行っています。また、安全配慮チェックシートを用いた点検も職員が月に1度実施しています。 ・毎月、大規模地震を想定した広域避難場所への避難訓練を含めた火災や地震を想定した避難訓練を実施しています。毎月初期消火訓練を交替で行い、全職員が体験できるようにしています。また、ビルの消防訓練にも幼児も一緒に参加しています。 ・子どものケガについては、軽傷であっても、連絡帳に記載するとともに、お迎え時に保護者に口頭で説明しています。 ・事故やヒヤリハットは、改善について話し合うとともに、報告書に記載して、全職員で共有しています。事故報告書、ヒヤリハット報告書は、毎月運営会社で集計・分析し、時間別、場所別、年齢別などに分けてデータ化し、系列園に注意喚起しています。

・入口は常時ロックし、モニターで確認してから開錠しています。また、民間警備会社による監視システムを導入しています。年2回、不審者対応訓練を実施し、体制の確認をしています。

II-3 人権の尊重



- ・保育理念に「positive sentence—否定語、禁止語は極力使わず、肯定語による前向きな言葉がけを意識すること」を掲げていて、園内研修及び全ての会議の前に唱和し確認しています。施設長・主任・クラスリーダー保育士は、日常の保育の中で気になることがあった時は、その都度注意し、周知徹底を図っています。保育士は常に意識していて、お互いに注意し合う関係ができています。
- ・保育士は、子どもが出来ること、出来たことを誉め、子どもが自信を持って活動に取り組めるように支援しています。
- ・子どもが友達を傷つけるような言葉を用いた時などには、保育士は子どもの話に耳を傾けて子どもの気持ちをいったん受け止めるように心がけています。その後、子どもであっても相手の人格を傷つけるような言葉や行動を許さない姿勢を示し、子ども自身が自分で気付くように指導しています。
- ・保育室は窓が大きく道路から中が見える構造ですが、トイレや着換え、昼寝、おむつ交換等、プライバシーへの配慮が必要な時には、子どものプライバシーが損なわれることがないように、まめにカーテンを降ろすことが周知徹底されています。
- ・個人情報保護方針、個人情報の取り扱いについてのガイドラインを定め、全職員に周知しています。入職時に個人情報に対するテキストを渡し、年1回個人情報テストを実施し、職員への周知徹底を図っています。退職時には、退職後の守秘義務についての誓約書を取っています。保護者に対しては、入園時に施設長が説明し、同意書を取っています。
- ・「差別の禁止マニュアル」の中に性差についても定めていて、職員会議の中で性差によって色分けをしないことについて話し合うなど、職員同士で話し合う仕組みができています。

II-4 保護者との交流・連携





- ・パンフレット、ホームページ、入園のしおりに保育の保育理念・目標・方針を掲載するとともに、入園説明会、年1回の懇談会で保護者に説明しています。また、行事の際にも施設長が説明しています。
- ・登園時の連絡帳は手渡しとなっていて、子どもの健康確認をしながら保護者と会話しています。降園時にも、保育士は保護者と会話するように努め、子どもの様子について情報交換しています。
- ・2歳児は秋に個人面談を実施し、幼児クラス進級にあたっての注意事項を説明し、保護者の質問に答えています。他のクラスについてもいつでも面談に応じていて、その旨を入園のしおりや入園説明会で説明しています。ただし、面談を希望する保護者が少ないので、個人面談期間を設置するなど保護者が面談に参加しやすいような工夫が期待




されます。

- ・保護者から相談を受けた保育士は施設長、主任に報告、相談出来る体制が整っています。また、必要に応じ、保護者の同意を得て施設長などが同席することもあります。
- ・毎月、園便り、クラス便りを発行しています。乳児は毎日、独自の連絡帳（育児日誌）を用いて保護者と情報交換しています。幼児は必要に応じて連絡帳を用いています。幼児クラスは、玄関にその日の活動の様子を記載し掲示しています。
- ・保護者が希望すれば保育参観、保育参加を受け入れていますが、しおりなどに明文化されていません。保護者アンケートにも、子どもの園での様子を実際に見てみたいという意見が複数見られますので、保護者が参加しやすいよう保育参観、保育参加を予定に組み込むなどの工夫が期待されます。
- ・保護者の自主的な組織はありませんが、運営委員会には保護者の代表が参加していて、意見交換しています。




評価領域Ⅲ 地域支援機能

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>Ⅲ－１ 地域のニーズに応じた子育て支援サービスの提供</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ビルの管理会社との交流や2ヶ月ごとのビルのテナントとの情報交換会で施設に対する要望を把握しています。また、園の行事の参加者や園の見学者からの相談を通し、地域の子育て支援ニーズを把握しています。 ・育児支援として、園の行事である夏祭り、作品展に参加した地域の親子連れと子どもたちが交流する交流保育を実施しています。 ・地域住民に向けての育児講座の開催等は実施していません。
<p>Ⅲ－２ 保育所の専門性を活かした相談機能</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・育児相談は随時受け入れていて、その旨を園の玄関前及び地域子育て支援センターや青葉区パネル展で掲示しています。また、見学者等の育児相談に応じています。 ・園の行事である夏祭りおよび作品展のポスターをビル内に掲示し、参加を呼び掛けています。 ・青葉区こども家庭支援課、横浜市青葉福祉保健センター、児童相談所、子育て支援拠点などの必要な関係機関をリスト化して、全職員が見ることができます。関係機関との連携の窓口は施設長で、日常的に連携しています。




評価領域Ⅳ 開かれた運営

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>Ⅳ－１ 保育所の地域開放・ 地域コミュニティへの 働きかけ</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ビルの管理会社とは、遠足バスの駐停車や行事の際の搬入室の利用などで日常的に協力を得られる体制ができています。勤労感謝交流会では、管理センターやテナントの仕事を見学しビル内のスーパーでの買い物体験を行い、交流しています。 ・近隣小学校とは、運動会に体育館を借りたり、小学校の運動会の招待を受けるなどし、交流しています。また、幼保小会議に参加しています。 ・地域への施設開放や備品等の貸し出しはおこなっていません。 ・5歳児が青葉区内の保育園交流に参加し、同年齢の子どもたちと交流しています。系列園とは、習字教室や遠足、消防署見学などで交流しています。 ・散歩の際に、保育士と子どもたちは近隣住民と挨拶を交わしています。また、今後ビルの行事等が行われた際には園児が参加できるよう検討しています。
<p>Ⅳ－２ サービス内容等に関する 情報提供</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページ、パンフレットなどを用い園の情報を提供しています。パンフレットやホームページには、施設概要、サービス内容の詳細、料金、職員体制など必要な情報を掲載しています。 ・利用希望者には、施設概要とパンフレットを用い、施設長が保育所の基本方針、利用条件、サービス内容などについて説明しています。 ・見学希望者が、ゆっくりと見学できるよう原則個別で対応しています。子どもの活動の様子が分かる時間帯を勧めています。見学希望者の都合に合わせて時間や曜日を調整しています。
<p>Ⅳ－３ ボランティア・実習の 受け入れ</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア及び実習生受け入れマニュアルを整備し、いつでも受け入れられるよう体制を整えています。ただし、今まで受け入れた実績はなく、今後の課題となっています。

評価領域Ⅴ 人材育成・援助技術の向上

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>V-1 職員の人材育成</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人材育成計画の中で、理念、方針を研修に取り込んで職員を育成しています。 ・ 年度の初めに、横浜市や青葉区を初めとする外部の研修案内書から、職員は自分の必要とする研修を選択、年間の計画を申請し、施設長は全体を統合して研修計画を作成しています。 ・ 内部研修は定期的実施しており、常勤職員は参加しています。非常勤職員にも参加を呼び掛けていますが、参加できない場合は、研修報告書を読むようにしています。 ・ 非常勤職員の配置は、リーダーや常勤職員の支援が受けられるようにバランスよく配置されています。非常勤職員の疑問点には、施設長やクラスリーダーが対応しています。
<p>V-2 職員の技術の向上</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 職員は、年に2回、自分自身の目標設定を行い、それに合わせて技術の向上に取り組んでいます。 ・ 毎月の月間保育計画や毎週作成される週案は、個々の子どもの成長、発達状況や意欲を把握し、評価したうえで作成されています。 ・ 保育士の自己評価は行われていますが、これらを踏まえた上での、保育所としての自己評価は作成されていません。現在、検討されており、早急に作成していくことが期待されます。
<p>V-3 職員のモチベーションの維持</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 職員のスキルアップのための考課シートが作成されています。この中で、中堅や管理職といった職階別の職員に対して期待する能力、知識が定められており、職員の目標や、能力開発の目標を定めることができ、職員のやる気を引き出しています。

評価領域VI 経営管理

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>VI-1 経営における社会的責任</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 職員の倫理規定や就業規則は定められており、新入職時に研修を行っています。 ・ 園としての事業報告書は作成されていますが、園の経営、運営状況等の情報は積極的に公表されていません。今後は、園としての自己評価を含めた経営、運営状況等の情報を保護者を初めとして外部に積極的に提供することが期待されます。 ・ コピー用紙の再利用、製作物に廃材を利用する等、ゴミ減量化やリサイクルの取り組みやLED電球の使用、冷暖房のオンオフをこまめにチェックする等の節電対策を行い、プランターにゴーヤなどを植えて、緑化の推進にも取り組んでいます。しかし、これら環境配慮への取り組みについて、マニュアル等には明文化されていません。現在行われている取り組みや目標等を再確認し、今後、どのような環境改善に取り組むかを運営計画などに明記して、職員全体への周知を行い、運営に活かされることが期待されます。
<p>VI-2 施設長のリーダーシップ・主任の役割等</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 運営理念、保育理念などは玄関に掲示されており、個々の職員の社員証にも記載しています。さらに運営会社全体研修、園内研修などでその理解を深めています。 ・ 重要な意思決定にあたり、行事や卒園式、修了式などのイベント時に保護者と懇談する機会を設けたり、年1回実施されている保護者懇談会や運営委員会に保護者代表が参加し、意見交換を行っています。また、重要な決定事項があった時には、お知らせや、掲示、あるいは職員による説明など、様々な手段を用いて保護者に説明をしています。 ・ 職員の配置や、職員に対する指導や助言は、主に施設長が行っており、職員へのサポートは今後の主任の育成の課題といえます。
<p>VI-3 効率的な運営</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 施設長は横浜市青葉区認可保育所施設長会議などの外部の連絡会に所属して、事業に影響のある情報を収集しています。また、運営会社としても重要な情報を把握しており、運営面での重要課題は、議論し、改善課題として取り上げています。 ・ 園としては中長期目標は設定されていませんが、運営本部としての中長期計画は策定されています。



利用者家族アンケート分析

【実施概要】

- 実施期間：2014年12月1日～12月15日
- 実施方法：利用者全員の家族に対し、保育園から直接手渡しで配付、評価機関に直接郵送でもらった。
- 回収率：配付34件、回収25件、回収率73.5%

【結果の特徴】

園に対する総合評価では、「満足」が76.0%、「どちらかといえば満足」が20.0%で合わせると96.0%となり、満足度の高い結果となっています。自由記述欄には「園の中は狭くて園庭もないけれど、毎日お散歩に行くことで足も強くなり、自然でいっぱい遊んで交通ルールも身につけている」や「園長先生をはじめ、担任の先生も他の先生も、いつも明るく子供たちと接していただいている」といった意見がみられました。

項目別では、“園と保護者との連携・交流について”の「保護者からの相談事への対応には」や“職員の対応について”の「あなたのお子さんが大切にされているかについては」及び「話しやすい雰囲気、態度であるかどうかについては」の3項目で100%の満足度となっており、その他ほとんどの項目で80%以上が「満足」、「どちらかといえば満足」と答えています。

“園と保護者との連携・交流について”の「保護者懇談会や個別面談などによる話し合いの機会について」では、満足度が68.0%となっており、自由記述欄では「年度途中で面談機会があればいい」、「保育参観などが年に1回あってもいいと思う」、「年長クラスになると、必要最低限の情報交換しかなくなってしまった」といった意見も出されていました。

●園の保育目標や保育方針について

「知っている」（よく知っている+まあ知っている）の割合は64.0%となっていますが、その中で「賛同できる」と「まあ賛同できる」と肯定的な回答が100%と全員が支持していました。

●年間の計画について

「年間の保育や行事についての説明には」では、84.0%が「満足」、「どちらかという満足」と回答しています。「年間の保育や行事に、保護者の要望が活かされているかについては」の自由記述欄には「要望を聞かれることはない」という意見が見られました。

●日常の保育内容について

「遊び」、「生活」についての自由記述欄では「積極的に公園に行き、また、毎回同じ所ではないので、子供もとても楽しみにしています」、「先生たちのおかげで嫌がらずに歯みがきをします」や「ケガをした時等、担任の先生から連絡を頂けるので、安心しています」といった意見が見られました。

●職員の対応について

ほぼ全ての質問で、90%以上の満足度となっており、自由記述欄には「子供がとても大切にされていると感じます」、「園長先生も担任の先生も親身になって下さり、大変安心しています」といった意見が見られました。

利用者家族アンケート集計結果

調査期間 : 2014年12月1日～15日

施設名

回収率 : 73.5 %

スターチャイルド《藤が丘ナーサリー》

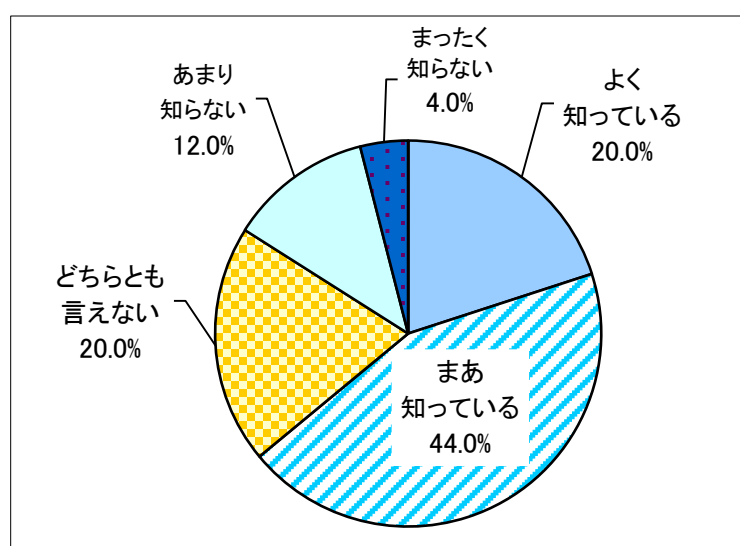
配布数 : 34 枚

回収数 : 25 枚

	0歳児クラス	1歳児クラス	2歳児クラス	3歳児クラス	4歳児クラス	5歳児クラス	無回答
クラス別回答数	2	8	8	4	3	0	0

(%)

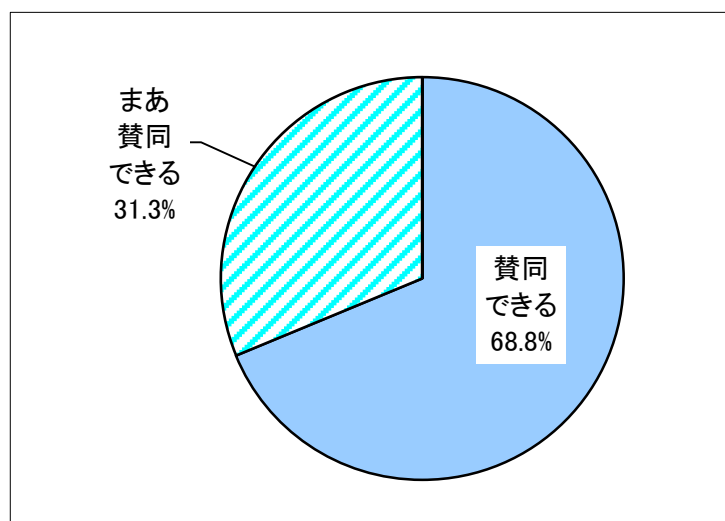
問1:	よく知っている	まあ知っている	どちらとも言えない	あまり知らない	まったく知らない	無回答
あなたは、この園の保育目標や保育方針をご存じですか	20.0	44.0	20.0	12.0	4.0	0.0



付問1:

(%)

付問1:	賛同できる	まあ賛同できる	どちらとも言えない	あまり賛同できない	賛同できない	無回答
あなたは、その保育目標や保育方針は賛同できるものだと思いますか	68.8	31.3	0.0	0.0	0.0	0.0



問2: 入園する時の状況について

(%)

	満足	どちらかといえ ば満足	どちらかといえ ば不満	不満	その他	無回答
見学の受け入れについては	60.0	20.0	0.0	0.0	20.0	0.0
入園前の見学や説明など、園からの情報提供については	64.0	24.0	4.0	0.0	8.0	0.0
園の目標や方針についての説明には	60.0	24.0	12.0	0.0	4.0	0.0
入園時の面接などで、お子さんの様子や生育歴などを聞く対応には	76.0	20.0	0.0	4.0	0.0	0.0
保育園での1日の過ごし方についての説明には	64.0	24.0	8.0	4.0	0.0	0.0
費用やきまりに関する説明には	80.0	16.0	4.0	0.0	0.0	0.0

問3: 年間の計画について

(%)

	満足	どちらかといえ ば満足	どちらかといえ ば不満	不満	その他	無回答
年間の保育や行事についての説明には	36.0	48.0	4.0	4.0	0.0	8.0
年間の保育や行事に、保護者の要望が活かされているかについては	16.0	56.0	4.0	4.0	8.0	12.0

問4: 日常の保育内容について

(%)

	満足	どちらかといえ ば満足	どちらかといえ ば不満	不満	その他	無回答
「遊び」について						
クラスの活動や遊びについては	60.0	28.0	0.0	4.0	0.0	8.0
子どもが戸外遊びを十分しているかについては	64.0	16.0	4.0	4.0	4.0	8.0
園のおもちゃや教材については	60.0	24.0	0.0	0.0	8.0	8.0
自然に触れたり地域に関わるなどの、園外活動については	64.0	20.0	4.0	0.0	4.0	8.0
遊びを通じて友だちや保育者との関わりが十分持っているかについては	60.0	32.0	0.0	0.0	0.0	8.0
遊びを通じたお子さんの健康づくりへの取り組みについては	52.0	36.0	0.0	0.0	4.0	8.0

(%)

	満足	どちらかといえ ば満足	どちらかといえ ば不満	不満	その他	無回答
「生活」について						
給食の献立内容については	64.0	32.0	0.0	0.0	0.0	4.0
お子さんが給食を楽しんでいるかについては	68.0	24.0	0.0	0.0	4.0	4.0
基本的生活習慣の自立に向けての取り組みについては	76.0	16.0	4.0	0.0	0.0	4.0
昼寝や休息がお子さんの状況に応じて対応されているかなどについては	68.0	12.0	8.0	4.0	4.0	4.0
おむつはずしは、家庭と協力し、お子さんの成長に合わせて柔軟に進めているかについては	56.0	24.0	4.0	0.0	12.0	4.0
お子さんの体調への気配りについては	76.0	16.0	0.0	4.0	0.0	4.0
保育中にあったケガに関する保護者への説明やその後の対応には	68.0	20.0	4.0	4.0	0.0	4.0

問5: 快適さや安全対策などについて

(%)

	満足	どちらかといえ ば満足	どちらかといえ ば不満	不満	その他	無回答
施設設備については	40.0	44.0	12.0	0.0	0.0	4.0
お子さんが落ち着いて過ごせる雰囲気になっているかについては	56.0	36.0	4.0	0.0	0.0	4.0
外部からの不審者侵入を防ぐ対策については	64.0	20.0	4.0	4.0	4.0	4.0
感染症の発生状況や注意事項などの情報提供については	60.0	20.0	16.0	0.0	0.0	4.0

問6: 園と保護者との連携・交流について

(%)

	満足	どちらかといえ ば満足	どちらかといえ ば不満	不満	その他	無回答
保護者懇談会や個別面談などによる話し合いの機会については	40.0	28.0	24.0	4.0	0.0	4.0
園だよりや掲示などによる、園の様子や行事に関する情報提供については	64.0	20.0	8.0	4.0	0.0	4.0
園の行事の開催日や時間帯への配慮については	68.0	24.0	4.0	0.0	0.0	4.0
送り迎えの際のお子さんの様子に関する情報交換については	64.0	32.0	4.0	0.0	0.0	0.0
お子さんに関する重要な情報の連絡体制については	72.0	20.0	4.0	4.0	0.0	0.0
保護者からの相談事への対応には	68.0	32.0	0.0	0.0	0.0	0.0
開所時間内であれば柔軟に対応してくれるなど、残業などで迎えが遅くなる場合の対応には	64.0	28.0	4.0	0.0	4.0	0.0

問7: 職員の対応について

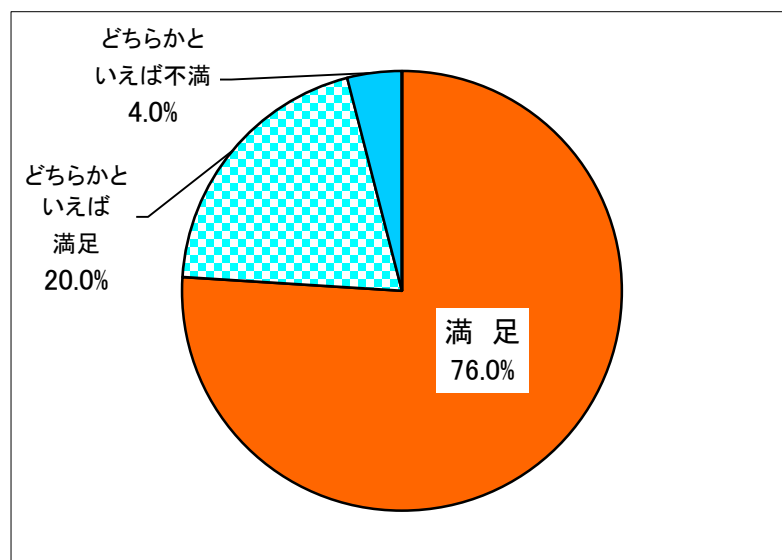
(%)

	満足	どちらかといえ ば満足	どちらかといえ ば不満	不満	その他	無回答
あなたのお子さんが大切にされているかについては	84.0	16.0	0.0	0.0	0.0	0.0
あなたのお子さんが保育園生活を楽しんでいるかについては	76.0	20.0	4.0	0.0	0.0	0.0
アレルギーのあるお子さんや障害のあるお子さんへの配慮については	48.0	20.0	0.0	0.0	24.0	8.0
話しやすい雰囲気、態度であるかどうかについては	76.0	24.0	0.0	0.0	0.0	0.0
意見や要望への対応については	64.0	28.0	8.0	0.0	0.0	0.0

問8: 総合的な評価

(%)

	満足	どちらかといえ ば満足	どちらかといえ ば不満	不満	無回答
総合満足度は	76.0	20.0	4.0	0.0	0.0





利用者本人調査

【実施概要】

■実施日時：2015年1月21日、1月28日

■実施方法：午前中の保育観察時間を中心に、各クラスの観察を実施、また幼児とは会話の中で適宜聞き取り調査を実施。

●0・1歳児クラス（ゆき組、つき組）

一斉活動としてのコーナー遊びの前に保育士が絵本を読みます。お気に入りの絵本のように、子どもたちは集中して聞いています。絵本を読み終わると、プラスチックでできたトンネルを絵本に出てきた橋に見立て、子どもたちがヤギ役になってトンネルを通り抜ける遊びをします。保育士が「誰だ、ガタピシ渡るの」と絵本のせりふを言うと、子どもたちは盛り上がり、歓声をあげてあわてて通ります。子どもが引き返さないよう、戻る時に保育士の持つタンバリンをたたくことになっています。ハイタッチが大好きな子どもたちはタンバリンをたたくのも大好きです。子どもたちが少し飽きてくると、保育士が「によろによろ」と声を掛けると、子どもたちが蛇の真似をして這って通ります。「ヤドカリ」というと後ろ向きになって通ります。子どもたちは言葉に対するイメージができていて、保育士の声掛けにすぐに反応することができます。

もう一つのおままごとのコーナーでは、布や毛糸で出来た保育士手作りの食べ物をボールやなべに入れて、ラーメン、カップケーキ、ポップコーンなど、自由な発想でいろいろなごちそうを作っています。子どもがカップケーキを作ると、保育士が誕生日の歌を周りの子どもたちと一緒に歌って盛り上げ、皆で食べる真似をします。子どもが食べ物をスプーンですくってみせると、保育士が「すごい」「上手」と誉めます。誉められた子どもは真剣になり、全ての食べ物をスプーンですくいます。それを見た保育士にたくさん誉められ、子どもは本当に誇らしげです。

食事は、0歳児、1歳児がそれぞれのテーブルを囲み、保育士も加わって楽しくおしゃべりしながら食べます。苦手なものを食べた時や、完食出来た時には、たくさん誉めてもらいます。友達が誉められた姿を見て、頑張っている子どももいます。トイレの時には、少しでも自分で脱ぐように頑張ります。出来ないところは保育士に助けってもらいます。パジャマへの着替えの時にも、保育士に半分ボタンをはめてもらい、残りは自分ではめるように頑張ります。上手に全部はめられると「できた」「すごい」と誉めてもらいます。このように、生活の様々な場面で保育士にたくさん誉めてもらい、子どもたちは少しずつ自分で出来るように育っています。

●2歳児クラス（にじ組）

観察日1日目は雨だったので、保育室で「買い物ゲーム」をしました。保育士が見本を見せてルールを説明した後、子どもたちが2つのチームに分かれ、玉子の寿司、おにぎり、ドーナツ、トマトなどのおもちゃの食べ物の中から一つを買ってきます。全員が終わると買って来たものを見せ合います。次は2個ずつです。1つ選んで戻ろうとする子ども、じっくりと考えて2つを選ぶ子どもとそれぞれです。保育士や戻ってきた子どもは「2個だよ。がんばって」と応援します。

お買い物ゲームの後には、タンバリンをたたく、フラフープをくぐる、平均台を歩くなどの身体を動かすゲームをします。ゲームの難度が少しずつ上がりますが、その都度保育士が見本を見せ、わかりやすく

説明するので不安に思う子どもはいません。保育士が「みんな、できるかな」と声掛けすると、子どもたちは元気よく「だいじょうぶ」と答えます。ゲームをする時には、子ども同士お互いに声援を送ったり、拍手で励まし合ったりし、チームで競い合うというより、皆でゲームをすることを楽しんでいます。

2日目には公園に散歩に出かけました。2人ずつ手をつなぎ一列になって歩きます。公園への道では庭先のきんかん、夏ミカン、通りを走るバスなど目につくもの全てが話題になります。道を渡る時はしっかり両側を確認してから渡ります。公園では、地面に描かれた図形や絵の中から鬼が言った図形や絵を探して中に入る「いろいろ鬼」をして遊びました。鬼に捕まるよりも皆で走り回ることが楽しいようで、うれしそうに頑張っています。鬼ごっこの後には、公園にあるアスレチックの遊具で自由に遊びました。友達と大勢で遊ぶ子ども、一人で探検する子どもとそれぞれのペースで元気いっぱい伸び伸びと遊んでいました。

子どもたちは、ゲーム性のある遊びを通し、友達と遊ぶ楽しさや協力すること、ルールを守ること等を少しずつ学んでいます。

●3・4・5歳児（うみ組、そら組、ほし組）

朝の自由遊びでは、子どもたちはパズル、ブロック、絵本など好きな遊びをしています。一人で黙々と絵本を読む子ども、友達との間に絵本を広げているもののおしゃべりの方が楽しい子ども、2、3人でトランプなどのゲームに興じる子どもとそれぞれです。一人ずつが作ったブロックの作品をつなぎ合わせて大きな作品を作り上げているグループもいます。自分たちで物語を作りながら作品を合体させ、遊びの世界を広げています。異年齢のグループが自然にでき、年上の子どもが年下の子どもに遊び方を教えたり、準備を手伝ったり、年下の子どもが年上の子どもの真似をしたりという姿があちらこちらで見られます。

時々、遊びのイメージが食い違ったりして、けんかになることがあります。言葉での争いの時には、保育士は傍で見守っていますが、一方的に相手を攻撃したり、手が出そうになった時には、間に入り仲介します。最初は興奮していた子どもたちも、保育士にお互いの言い分を聞いて整理してもらおうと、少しずつ落ちついていき、自分の気持ちを言葉にして相手に伝え自分達で解決できるようになります。

朝の会の時には何をして遊びたいかを保育士が子どもたちに問いかけます。子どもたちの間では転がしドッジボールが人気のようです。雨なので、室内でハンカチ落としや縄跳び、転がしドッジボールをして遊ぶことになりました。子どもたちが知っている遊びですが、保育士が遊びのルールを少しずつ複雑にしています。例えば、縄跳びでは、ゆすって蛇に見立てた縄をまたぐ、20センチメートルほどの高さに縄をはって両足で飛び越える、波を飛び越えるなど、少しずつ難しくしていきます。子どもたちはルールを理解し、身体を動かしています。

観察日2日目には外部講師による体操教室がありました。講師の指導により、柔軟体操、縄跳び、ボール投げ等を行います。子どもの運動能力に合わせ、講師の投げるボールの強さは調整されていますが、講師と保育士に誉められたり、励まされたりしながら、子どもたちは真剣に課題に向けて取り組みます。なかなか投げられなかったボールを上手に投げられた時の子どもたちの顔はとてうれしそうです。

まとめ

ビルの中の保育園で、園庭はありませんが、体操や身体を使ったゲーム、縄跳びなどが遊びの中に取り入れられていて、子どもたちは思いきり身体を動かしています。保育士に前向きな言葉で応援してもらい、子どもたちは、前向きに物ごとに取り組み、自分のことは自分でやるように育っています。



事業者コメント

スターチャイルド「藤が丘ナーサリー」は、田園都市線「藤が丘」駅に、平成24年4月に開設されました。

開園から3年が経ち第三者評価を受審しましたが、第三者評価は私たちの保育を職員一同で考える良い機会となり、ひとつのイベントのように取り組みました。評価項目のひとつひとつを振り返ることで、出来ていること、これから実施すべきこと、改善すべきことの確認ができました。

また、保護者の方々の利用者調査のご協力、心より御礼申し上げます。みなさまの貴重な意見を今後の保育運営に反映し、より良いサービスの質の向上に繋がるよう努めていく所存です。

最後に、調査員の方々には自園の取り組みについて親身に耳を傾けてくださり、また励ましや評価のお言葉をいただき、私たちにとって自信や確信に繋がりました。感謝申し上げます。

保育園はお子さまの大切な命と、お子さまを想う保護者のところをお預かりすることを使命とし、さらなる邁進へと努めてまいります。

スターチャイルド「藤が丘ナーサリー」
施設長 高橋 順子

福祉サービス第三者評価 評価機関

かながわ福祉サービス第三者評価認証機関 第 26 号

横浜市福祉サービス第三者評価指定機関 第 17 号

横浜市指定管理者第三者評価機関 認定番号 25-01

全国社会福祉協議会社会的養護関係施設第三者評価機関 認証番号 2510-002-01

特定非営利活動法人 よこはま地域福祉研究センター

〒231-0013 横浜市中区住吉町 2-17 金井ビル 201 号室

TEL : 045-228-9117 FAX : 045-228-9118

<http://www.yresearch-center.jp>

